指名解雇でおどし 三化 三合 全面ストに入る

肩たたきハネ返す

三井化学は四月一一日から二五日まで一五日間の希望退職募集期間には、三化・三合労組の力強い団結にはばまれてついに予定数に達せず、三〇日まで期間を延期することを発表した。

三化・三合労組の団結の強さを知った三井化学は、ついに「指名解雇をするぞ」というおどしをかけながら、肩たたきを一層強化している。

このような事態に対して三化・三合労組は四月二九日午前七時より五月二日まで全面七十二時間ストライキに突入した。

合理化の犠牲も

会社が肩たたきを強行していた四月一八日午後二時四〇分ごろ、オキシロン酸化工程で作業中の四名の組合員が亜硫酸ガス中毒にかかり、一名が死亡し三名が重軽傷を負った。

この事故について三化労組は原因調査委員会を作り原因を調査しているが、死亡した内田さんらは容器内にガスがないと判断した係員の指示で作業を開始したということがわかり、全く保安を無視した係員の指示が原因と考えられている。

「息子が間違いをするはずがない」

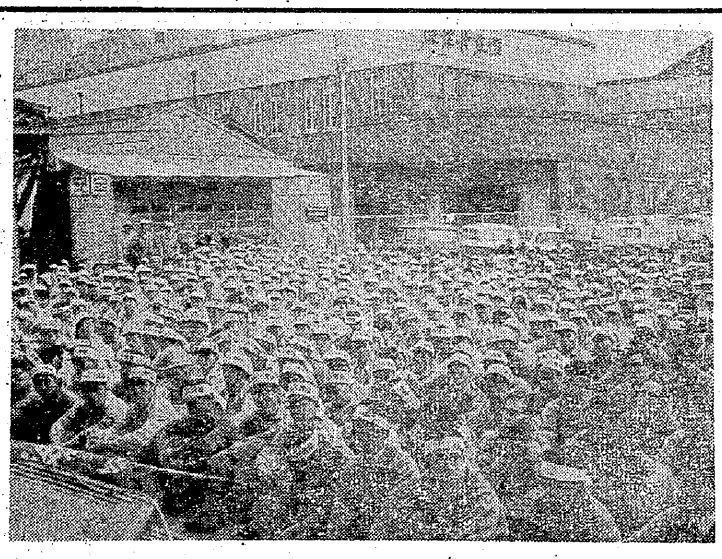
新聞「三化労」（三化労組機関紙）が伝えるところによると、四月一九日の内田さんの社葬の場で内田さんのお母さんが、事故があたかも内田さんの独断によって引きおこされたかのごとく会社が発表している新聞を片手に、「私の息子はこういう間違いをおこすわけはありません」と木谷所長にはげしく詰めより、参加した労仂者の強い共感を呼んだ。

「あんたと心中しよう」

三化労組のある支部では、肩たたきを行った課長に、支部組合員全員が抗議を行った。

この中で一組合員が「あなたのいうように本当に会社が苦しいのなら給料の高いあなたからやめたらどうですか。私の首を切るならあなたも一緒にやめなさい。心中しましょう」と涙ながらにつめより握手をせまった。

この捨身の抗議に課長は頭を上げることも出来なかった。



＝三井化学本社前で抗議する組合員＝

私の書棚

たたかう人民の素顔

W・G・バーチエット著　田中文蔵訳

素顔の解放区

世界的なルポライターとして知られる著者が南ベトナム解放民族戦線解放区を赤裸裸に紹介している。密林のなかを解放軍兵士に案内され、時にはヒルにとりつかれ、銃火のなかで秘密の地下壕にはいつくばったりしながら解放軍指導者、少数部族兵士、女性ゲリラ隊員などの素顔をみごとにとらえている。ベトナム情勢を歴史的に見定めた貴重なルポだ。

（弘文堂・二九〇円）

格好の入門書

北星晃平著

漫画の基礎

この本は筆者が職場や労仂組合で開かれた漫画学校、漫画教室での講義、実習の経験をまとめたもの。内容は「らくがきから出発した漫画のかきかた」「カルカチュア変形」「創作方法」「理性的漫画と感性的漫画」など多方面にわたり創作の理論化も試みている。類書がないだけに格好の入門書だ

（大阪市福島区堂島浜通り四の一四、堂浜ビル内、日本漫画同盟・送料共三五〇円）

× ×

いよいよ開講！ 労大第二期講座

○五月二日（月）より一一月九日まで連続三日間、二週間おき。
○申し込みは大至急
○申し込みは三池労組本部、または各支部へ。
○受講料は全期間を通じ一、五〇〇円
○課目　（課目）　（開始目）

- 賃金について　5月2日
- 資本主義のしくみ　5月23日
- 合理化とは　6月13日
- 合理化反対斗争　7月4日
- 労仂者の権利　7月25日
- 社会主義と労仂運動史　9月5日
- 政党と労仂組合　9月26日
- 憲法改悪と労仂者　10月17日
- 社会主義の展望　11月7日

われら五人組 (8)

自分のいのちは自分たちで

スミのことしか考えぬ係員

一斉保安点検

第八回目も、宮浦支部中方採炭の五人組（紅葉ガ丘・通松）のみなさんに話しあってもらった。三交替、採炭という第一線で仂くみなさんの発言には力強いたたかう労仂者の根性がみられる。

【出席者】
原口　時雄さん（組長）
森山　春芳さん
井手口満春さん
田代　幸夫さん
中野　八郎さん
猿渡　昭治さん
松岡　重治さん
内田　政義さん

へった負傷者

――負傷ゼロ運動の一環としてたたかわれている一斉保安点検のたたかいについて話して下さい。

――保安の一斉点検はたしかに効果がありました。二、三年前まではわれわれの分会でも、月に一四名から一五名のケガ人が出ていましたが、いまでは月に四名ぐらいです。

――一斉保安点検とは、どんなことをしているのですか？

――私たちの場合は全員が採炭作業を中止し、チエン・コンベアーを止めて、天井や側壁が危険でないかどうかを点検します。悪い個所には、柱を打ったり、ワクを直したりすることです。

――本当は係員が一斉点検をしなければならないのですが、私たちがいくら抗議しても係員はやらないので、係長に直接交渉して自分たちでやっています。

ケガすれば……

――一斉保安点検も、三池労組員の間でもなかなか足なみがそろわず、決めたことが守られないということもあったが、五人組で討議していくうちに、自然とみんなの行動がそろうようになった。

――ケガすれば、結局は自分たちが損するということが、はっきりわかった。自分でイタカ目あって、本人の不注意だといわれて、決してよくいわれず、その上休んで損をする。

「忘れた」といいわけ

――係員はどんな態度をとりますか？

――私たちの素直な感じは、係員は上の人たちの全くいいなりで出炭のことしか頭にないようだ。

――一斉保安点検も、出炭第一で、決して保安のためにはやらない。マイトを打って休んでいるときだとか、故障でチエン・コンベアーが止ったときなどに「一斉点検をやろう」という。それ以外のときは「忘れた」などといいわけする。

――われわれが一斉点検を要求しないかぎり「よかさいわい」でなんにもしない。

――係長に、係員のこんな態度について抗議しても、いつも「注意します」というだけで、口先きだけだ。

――だから、われわれは天井が悪いと思ったら一時作業を中止して、天井ばかり見つめていると、係員もやむをえずきて点検する。こういう抵抗ができるのも、われわれ五人組での討議の成果だ。

点検しない第二組合

――第二組合員はどういう態度をとっていますか？

――第二組合には一斉点検はない。

――この前、私の現場で、係員がコンベアーを止めようとしたらある第二組合員が「なし止めるとな？」というので、係員が「一斉点検たい」といったら「一斉点検は機械を止めんでもできるじゃんか！」といって怒っていた。

こんな態度ではケガするのが当り前だし、三池労組より第二組合員の方が負傷者がグッと多いこともうなずける。

「わが身はわがで…」

――スミのことしか頭にない係員には、われわれの命をあずけるわけにはいかない。ケガした後に「しもた！」と思ってもおそいし会社は本人の不注意としかいわない。自分の身は自分たちの力で守るしか方法がない。

頭の中にあるのはこれだけ……

まなぶ　5月号　70円送料6円
1年分720円（切手での申込も可 10部以上は取扱制）
●働くものの月刊学習誌
特集　①これからの憲法闘争
座談会＝岡十万男芹沢彪衛権守広雄
資本家の恋しがる旧憲法下の日本
共同討議＝小林誠　福田徹　山崎耕一郎　山本政弘
下からつみ上げるたたかい組織づくり
現地ルポ＝千健北志
改憲阻止の旗をふる大阪の仲間たち
特集　②この実態は訴える
一酸化炭素中毒特別立法を私たちの力で
宮川睦男高椋竜生古賀徳継被災者家族の記録
まなぶということ＝金子洋文
二つのドイツ＝近江谷左馬之介
まなぶ論壇＜反幹部闘争＞岡村省三
人とし生きるために＝岡田喜代
新連載＜仲間とともに＞木原実
若き同志への手紙
労仂大学東京都千代田区六番地1自治労会館内